

## ジビエのペットフード利用の取組事例

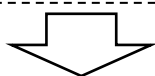
「施設名：Passo、運営者：NPO 法人 cambio<カビオ>」

### 【取組概要】

捕獲されたシカのペットフード利用に取り組むことで、地域課題の解決（障害者雇用の創出や耕作放棄地・遊休施設の有効活用、町のシカ処分経費の軽減）を実現

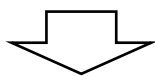
### 【原料確保】

- 多可町内で有害捕獲されるシカの大部分を受入
- H30 年度には 492 頭を受け入れて、全頭をペットフードに利用



### 【加工】

- シカの胃と腸以外は全て活用
- シカ肉と内臓のミンチにその他の部位を焼却した灰（ミネラルとして）や乾燥野菜、オカラ等を混合したドライフード、アバラ骨やロース、モモを利用したジャーキー、骨を粉砕して加工したフレーク等の自社製品を製造



### 【販売】

- 自社製品は、主にネットで販売しているが、地元の道の駅で販売しているほか、ふるさと納税返礼品としても提供
- シカ原料の大部分を自社製品に加工して販売しているが、一部はペットフード原料用としてペットフード業者に販売

### 施設概要

所在地：兵庫県多可郡多可町

整備時期：H26 年 5 月から事業開始

地域経済循環創造事業交付金を活用して休止中の給食センターをペットフード製造工場に改修し、同施設敷地内にシカの処理加工施設を整備

施設規模：処理加工施設（一次処理室、二次処理室 等）

ペットフード製品加工施設（商品加工室 等）

設備：≪処理加工施設≫金属探知機、冷蔵庫、冷凍庫、粉碎機、焼却設備 等

≪ペットフード製品加工施設≫スライサー、ミンサー（肉挽き器）、乾燥機、ペレット成形機 等



処理加工施設



ペットフード製品加工施設



搬入冷蔵庫



粉碎機



焼却設備



商品加工室

## 取組概要

取扱獣種：シカ

処理頭数：492 頭（H30 年度）、532 頭（H29 年度）、417 頭（H28 年度）

全頭をペットフードに利用

取組開始の経緯：多可町内には食肉向けの処理加工施設があったが、施設に搬入されず食肉利用されないシカの処理費用が町の負担となっていた。そこで、NPO 法人 cambio は、遊休施設の活用、障害者雇用により、食肉利用されないシカをペットフードに加工する事業を町に提案し、賛同が得られたことから地域経済循環創造事業交付金を活用して H26 年度から事業を開始

利用部位（ペットフード）：胃と腸以外は全て活用

販売原料・製品：《原料》肉 等

《製品（施設内加工）》ドライフード（一般食）、ジャーキー（ロース、モモ、アバラ骨）、フレーク等を製造しており、ドライフードの製造が大部分を占める

製品の特徴：京都大学（動物栄養科学分野）の教授の助言により原料配合を決定したドライフードを開発。原料には地元農家が耕作放棄地を再生した農地等で生産したサツマイモや、かぼちゃ、ニンジン等のこだわり素材を使用し、加工時には素材の栄養を損なわないよう低温で乾燥

販売方法：《原料》ペットフード製造事業者へ販売

《製品》主にネットで販売しているが、地元の道の駅で販売しているほか、ふるさと納税返礼品としても提供。販路開拓にあたっては、イベントに出展し、飼い主に試供品を渡して製品の良さを実感してもらっており、利用者の口コミが更なる顧客の獲得に繋がっている

苦労・工夫した点：ペットフード製造のノウハウがない状態から事業を開始したので、犬の嗜好性を確認しながら、京都大学教授の助言を参考に試行錯誤して製品を開発。販売にあたっては、フード変更で犬の食いつきが悪くなる等のトラブルを回避するため、試供品を送付している



販売サイト（HP）



ドライフード（試供品）



ジャーキー



ジャーキー（アバラ骨）

### ペットフード製造による施設経営への効果

メリット：止め刺しから施設搬入までに求められる時間を、食用（2時間以内）と比較すると長くとることができるので、捕獲者への負担が軽減され、捕獲されたシカの多くを搬入してもらうことが可能

### 受入から解体（ブロック肉）までの流れ

- ① 受入（捕獲者が捕獲状況を伝票に記載し、搬入冷蔵庫に保管）
  - ※ 施設管理者は、搬入冷蔵庫の上方に設置したカメラにより受入状況を確認
- ② 剥皮、内臓摘出
  - ※ 解体技術のある猟友会員（アルバイト雇用）が解体を実施
- ③ 枝肉から精肉（ブロック肉等）に解体し、冷凍保管
  - ※ 目視と金属探知機により金属混入を確認

#### <ペットフード利用部位の取扱>

- ・ 切断した頭と足先は、焼却設備で焼却し、灰をミネラルとして製品に利用
- ・ ジャーキー利用しない骨は、粉碎機で粉碎し、シカ肉フレーク（製品）に加工



一次処理室



二次処理室



冷凍保管庫

## ペットフード製造の流れ

### <ドライフード>

- ① 冷凍ブロック肉をスライスして解凍
- ② シカ肉等の原料をミンサーにかけ、ミンチ状にして混合
- ③ 乾燥機（70℃弱の温風低温）で水分約 20%まで乾燥
- ④ ペレット状に成形
- ⑤ 乾燥機（70℃弱の温風低温）で水分約 8%まで乾燥

※ サツマイモ等は、乾燥させて保管しておき年中利用



商品加工室

## 今後の経営展望

ドライフードについては、シカ肉が足りていないため現在の顧客に販売する量しか製造できていないことから、H30 年度に整備した冷蔵庫等を活用し、他市町村からもシカを受け入れて、増産に取り組む

猫は犬と比べ飼育頭数が多く、餌代単価が高いため、猫用のジビエペットフードは新規需要が見込めることから、嗜好性の高いキャットフード（ドライフード）の開発・製造に取り組む

《令和元年7月の現地調査に基づき作成》